

日本昆虫科学連合

Union of Japanese Societies for Insect Sciences

2021年4月15日

日本昆虫科学連合加盟団体代表 各位

日本昆虫科学連合

代表 志賀 向子



拝啓

平素より日本昆虫科学連合の活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年（2020年）の公開シンポジウムは、新型コロナウイルス感染拡大を受け2021年に延期となりました。本年の公開シンポジウムの開催について、第6期役員及び運営委員で協議しておりましたが、現在もなお新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を踏まえ、対面（オンサイト）での開催は断念し、6/26（土）にオンライン（Zoomウェビナー）で開催することといたしました。

総会の開催方法についても現在検討しているところです。こちらについては、改めてご連絡いたします。

本年のシンポジウムの詳細については、次ページをご覧ください。ポスターが完成し次第、お知らせします。

敬具

公開シンポジウム「インセクトワールドー多様な昆虫の世界 IIー」の

開催の概要について

1. 主 催： 日本昆虫科学連合・日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会

2. 日 時： 令和3年6月26日（土）13：00～16：45 （予定）

3. 場 所： ウェビナー形式（オンライン）での開催

4. 開催趣旨：

地球上には我々に恩恵や害を及ぼすか否かにかかわらず、動物種の8割以上を占めるといわれる多様な昆虫が暮らしている。そこで、2019年は、それ以前とは異なり、特に人間との関係にのみ焦点を当てることはせず、多様な視点から昆虫に関わるテーマを取り上げて公開シンポジウムを開催したところ、幸いにも非常に多くの方々に参加していただくことができ、大変好評であった。そこで、2020年も2019年のテーマ「インセクトワールドー多様な昆虫の世界ー」を継続し、2019年のシンポジウムではカバーしきれなかった多様な視点から5名の研究者に話題を提供していただくこととしていた。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、本シンポジウムの開催は次年度に延期となった。

2021年は、2020年の企画をそのまま継承して実施する。本シンポジウムではまず、農研機構（植物防疫研究部門）の矢代博士に、「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」についてお話しいただく。つづいて、農研機構（生物機能利用研究部門）の亀田博士には「ミノムシの生態と糸の特徴」として、クモ糸を凌駕する強靱なミノムシの糸の特性とその利用についてお話しいただく。大阪府立大学生命環境科学研究科の上田博士には、「アリをめぐる生物の種間関係と共進化」について、アリの巣に寄生するチョウの絶滅要因にも言及しつつご紹介いただく。休憩を挟み、産業技術総合研究所の沓掛博士には「社会性アブラムシ」について社会性の分子基盤などをご解説いただき、最後に、玉川大学農学部の小野博士に、「社会性ハチ類の行動生態学」について、集団防衛行動や警報フェロモン等にも言及しつつ基礎と応用の両面からハチ類研究の最前線をご紹介いただく。講演と総合討論の座長は名古屋大学の池田素子教授にお願いする。本シンポジウムが、昆虫をとおして生物の多様性について認識をさらに深める機会となることを期待している。

5. 次 第（講演順、講演者、タイトルは変更の可能性あり）：

13：00 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告

小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学 農学部 教授）

13：20 日本昆虫科学連合活動報告

志賀 向子（日本昆虫科学連合代表、大阪大学 大学院理学研究科 教授）

講演

（座長）池田 素子（日本学術会議第二部会員、

名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授）

13：35 「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」

矢代 敏久（国立研究開発法人 農研機構植物防疫研究部門 研究員）

14：05 「ミノムシの生態と糸の特徴」

亀田 恒徳（国立研究開発法人 農研機構生物機能利用研究部門

ユニット長）

14：35 「アリをめぐる生物の種間関係と共進化」

上田 昇平（大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 准教授）

15：05－15：20 （ 休憩 ）

15：20 「社会性アブラムシにおける利他行動の分子基盤と進化」

沓掛 磨也子（国立研究開発法人 産業技術総合研究所

生物プロセス研究部門 研究グループ長）

15：50 「社会性ハチ類と私たちとの関係」

小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学 農学部 教授）

16：20 総合討論

16：45 閉会